

■ 次の文の——線の敬語の使い方が正しいほうに○をかきましよう。

(1) () 父は来週の月曜日に学校にいらっしゃると申していました。
(○) 父は来週の月曜日に学校にうかがうと申していました。

() 自分や自分に関係する人の動作を言うので、けんじよう語を使います。
(○) 自分や自分に関係する人の動作を言うので、けんじよう語を使います。

(2) () お客様が、私たちのクラスの劇をご覧になることになった。
(○) お客様が、私たちのクラスの劇をご覧になることになった。
相手をお敬う気持ちを表すので、尊敬語を使います。

() お客様が、私たちのクラスの劇を拝見することになった。

(3) () 先生に「今度、私の家にいらっしゃってください」とお願いした。
(○) 先生に「今度、私の家にいらっしゃってください」とお願いした。
自分や自分に関係する人の動作を言うので、けんじよう語を使います。

() 先生に「今度、私の家にいらっしゃってください」とお願いになった。

(4) () 市長も町内会の祭りにご参加するそうです。
(○) 市長も町内会の祭りにご参加になるそうです。

() 市長も町内会の祭りにご参加になるそうです。
(○) 市長も町内会の祭りにご参加になるそうです。
相手をお敬う気持ちを表すので、尊敬語を使います。

(5) () 学芸会のはじめに、校長先生がお話しになる。
(○) 学芸会のはじめに、校長先生がお話しになる。

() 学芸会のはじめに、校長先生がお話しになる。
(○) 学芸会のはじめに、校長先生がお話しになる。
尊敬語には「——れる(られる)を使う言い方もありますが、同じ尊敬語の「お——になる」と重ねて使うのは、正しくありません。

(6) () 先生が「大事なことから覚えておきなさい」とおっしゃられる。
(○) 先生が「大事なことから覚えておきなさい」とおっしゃられる。

() 先生が「大事なことから覚えておきなさい」とおっしゃられる。
(○) 先生が「大事なことから覚えておきなさい」とおっしゃられる。
尊敬語の「おっしゃる」と同じ尊敬語の「——れる(られる)」を重ねて使うのは、正しくありません。

